

個々の子供たちと向き合い、 地域の子育てをサポートしていきたい

60年以上の歴史を持ち、また昨年度認定こども園として開園したはまの幼稚園。副園長の海野純子さんと現場で子供たちに向き合う主幹保育教諭の小澤実央さんに伺いました。



学校法人 畠山学園
認定こども園 **はまの幼稚園**
主幹保育教諭
小澤 実央

昨年度から 認定こども園として開園

はまの幼稚園は1955（昭和30）年に開園しました。当時は5歳児50人、4歳児20人という規模でしたが、その後、60年以上の歴史の中で6100人を超える卒園生を送り出しています。現在は定員285人（年長3クラス／年中3クラス／年少3クラス）となっています。

教育目標としては、①毎日の保育活動を通して、運動機能を高め、たくましい心身を育てる。②豊かな自然の中で優しく明るく心を育てる。③ひとりひとりの個性を大切に、社会生活に適應する基礎的な習慣を身につける。——という3つの項目を掲げ、「健康で

思いやりのある、心豊かな子ども」の育成に日々、努力を重ねています。

今年で64年目をむかえ、「保護者や地域から信頼される幼稚園」をめざし、地域における幼児教育の中核施設として、その役割を担ってまいりました。

また、2017（平成29）年より認定こども園（幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持ち、就学前の教育・保育を一体的に行う施設）として開園し、より一層、地域の子育てを支援しています。

若い先生でも 自分の意見が言いやすい環境

私は母親も同じような仕事をしていましたし、自分が幼稚園に通っていた頃から担任の先生のが大好きで卒業して

だった人もいます。保育士の数が減ってきているという現状の中で、保育士になりたい人が増えるように、この仕事の素晴らしさを伝えていけたらと思います。

コメント

副園長 海野 純子 さん



実央先生は初年度から私の隣のクラスの担任となりました。新任の頃から落ち着いていて、素直な性格でまずは聞き入れてみる事が備わっていました。人を敬う気持ちも持っていましたね。それに、自分のやりたい保育があり、「私、こんなことをしてみたい」と意見を出してくれるので、うまく進めていきました。

10年の間に社会が大きく変化し、親も子供たちも変わってきました。保育者も自分が経験したことを先輩に教えるだけではない世の中になっています。実央先生はそうした中で自発的に研修にも出掛けるなどして、とても熱心に取り組んでいます。未知のものに対して、大らかに受け入れる姿勢はこれからの子育て支援に向いているし、頼りになる存在で期待しています。



園後もずっと年賀状の交換をしています。幼稚園の先生になることをずっと夢見ていて、高校生の時にインターンシップで公立保育園で仕事を体験して、「すごい世界なんだ」と感動して、短大に進み、保育者資格を取得しました。短大の先生のご紹介もあって、この園に来てみたら先生たちも優しく、子供たちも元気でこのびびしているの、ここで働きたいと思い、就職しました。勤務して今年で11年目になります。

とても働きやすい職場で若い先生たちも自分の意見が言いやすい環境にあると思います。今は主幹保育教諭として、担任を持たず、各クラスを回っています。10人の先生がいれば10通りの保育があるので、自分が基準にならないように、それぞれの個性を活かしながらどうやっていけるかを考えていますね。

クラスをみることから 個々の子供たちをみる体制へ

昨年度、認定こども園として開園してからの変化と言えば、夕方以降や土曜日など子供たちを預かる時間が長くなったことです。

保育内容自体は変わってはいないのですが、やはり働いているお母さんの子供を預かるケースが増え、家庭内で過ごす時間が少ない子供に対して家庭

子供たちと関わることは 日々、感動がある

自分がやりたいことを子供たちに聞いてもらえないとか、うまくいかないことは日常の仕事の中でおおくりあります。でも、子供たちは素直なので、時間をかけて一生懸命やれば、反応が返ってきます。その子たちが卒園していく時には「この子たちに関われてよかったな」としみじみ思います。

運動会など行事などはプレッシャーを感じながら準備していくのですが、本番は子供たちが喜んでくれて想像していた以上のイベントになります。行事だけではなく、毎日、そうした感動があります。そういう中で日々過ごしているのはありがたい仕事だと思いますね。

また、職場体験などで中学生が来てくれるのですが、園に通っていた子も時々いて、再会できるとすごく嬉しいです。若い先生の中にはこの卒園生

学校法人 畠山学園
認定こども園 **はまの幼稚園**

〒260-0824 千葉市中央区浜野町1252-4
☎ 043-261-0725